

平成29年漁期 するめいか漁獲可能量(TAC)案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考
		水準	動向	26年	27年	28年	29年	漁獲シナリオ (管理基準)	26年	27年	28年	29年 (案)	
するめいか	<p>【中期的管理方針】 本資源は減少傾向にあるが、これは海洋環境の変化に伴う再生産環境の悪化によると考えられ、短期的には減少傾向を緩和し、中期的には環境が改善された場合に資源を速やかに増大できるよう親魚量を確保することを基本方向とする。 ただし、本資源は、大韓民国等と我が国の水域にまたがって分布し、外国漁船によっても採捕が行われており我が国のみの管理では限界があることから、関係国との協調した管理に向けた取組が行えるよう努めつつ、管理を行うものとする。</p>												
	冬季発生	低位	減少	19.3	19.4	21.5	6.9	親魚量の増大(5年でBlimitへ回復)(②)					<p>【29年TAC設定の考え方】 中期的管理方針に則して、冬季発生系群については、ベースとするABCを漁獲シナリオ「②親魚量の増大(6.9万トン)、秋季発生系群については、「②親魚量の維持(15.6万トン)」とし、これらの合計値22.5万トンから、過去10年のうち、全漁獲量に対する日本EEZ内の漁獲割合の最大値(2007年、60.1%)を乗じた13.6万トンをTAC数量とする。</p>
	秋季発生	中位	減少	28.1	40.2	20.5	15.6	親魚量の維持(②)					
合計			47.4 (30.1)	59.6 (42.5)	42.0 (25.6)	22.5 (13.6)		30.1	42.5	25.6	13.6		

(注1) 下段()書きについては、日本EEZの値。

(注2) 26年のABCは管理期間を1月～12月から4月～3月に変更し、再計算した値。

【資源評価結果】

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2017年 ABC (万トン)	参 考	
	水準	動向				2016年 親魚量	Blimit
冬季発生系群	低位	減少	<Blim	ABClimit *① 親魚量の増大(B/Blimit×Fmed)(Frec)	5.7	10.4万トン (3.3億尾)	親魚量 16.0万トン (5.2億尾)
				*② 親魚量の増大(5年でBlimitへ回復)(Frec5yr)	6.9		
秋季発生系群	中位	減少	>Blim	ABClimit *① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	8.1	44.4万トン (15.9億尾)	親魚量 40.4万トン (14.4億尾)
				*② 親魚量の維持(Fmed)	15.6		

注) *のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。